

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991800093		
法人名	社会福祉法人 寿ノ家		
事業所名	寿ノ家 グループホームみさか		
所在地	山梨県笛吹市御坂町下野原839-1		
自己評価作成日	令和 3年 12月 31日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4年 2月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの役割りを再度職員間で振り返りながら、法人理念でもある『心をこめてひとりひとりを大切に』を心がけています。グループホームの特色を活かし、一人一人の想いや、こだわりを大切にしています。
新型コロナウイルスの蔓延を受け、地域との繋がりが遠のいてしまっています。社会情勢に応じた地域活動の継続方法を模索しているところです。事業所が有する資源を、地域に還元できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①地域密着の事業所として、地域に対して様々な情報を発信することにより地域の協力者が増え、運営推進協議会と連携して事業所を支える仕組みが根付いている。このことは行政からも高く評価されている。②事業所敷地内に畑があり、菜園にして野菜を栽培している。入居者が水やりや除草をすることでリハビリや運動に発展し、機能維持につながっている。野菜は地域の人たちの協力のもと収穫し、キッチンで調理されて食卓に並ぶ。入居者にとっては自らが栽培に関わることで生活に励みを感じている。③コロナ禍の中、さまざまな制約があり、入居者には我慢してもらわなければならないことが多々あるが、与えられた環境の中で事業所の特性を生かして入居者のニーズ応えられるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

寿ノ家グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春[こはる])	ユニット名(日[ひより])	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『心をこめてひとりひとりを大切に』という法人理念と、事業所目標についての職員研修を、年度初めに、全職員を対象として行っている。その事業計画に沿って、職員一人一人が個人目標の設定を行い、取り組んでいる。	『心をこめてひとりひとりを大切に』という法人理念と、事業所目標についての職員研修を、年度初めに、全職員を対象として行っている。その事業計画に沿って、職員一人一人が個人目標の設定を行い、取り組んでいる。	全職員、新規採用職員を対象に、理事長より法人理念の研修が行われている。また、各事業所においては目標が変わってくる為、事業所管理者による研修が実施されている。また、事業計画に沿って職員一人ひとりが個人目標を設定している。事業所では個人の目標が達成できるよう必要な支援体制を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、ボランティアの受け入れを行った。基本的には、非接触型の畑ボランティア、屋外で必要な距離を保ちつつの焼き芋、餅つき大会などが出来た。	新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、ボランティアの受け入れを行った。基本的には、非接触型の畑ボランティア、屋外で必要な距離を保ちつつの焼き芋、餅つき大会などが出来た。	2か月に1度の運営推進会議に地域の民生委員が出席し地域の中で困っている人、力を貸してくれる人についての情報提供をいただく。また、地域の民生委員を対象に地域密着型のサービスの内容、グループホームの目的、対象者、経費についての勉強会を行う。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御坂地区、石和地区の民生員や地域住民の方を対象に介護講座の実施が出来た。(地域密着型事業所の役割り、グループホームや小規模多機能型居宅介護の特性について)	御坂地区、石和地区の民生員や地域住民の方を対象に介護講座の実施が出来た。(地域密着型事業所の役割り、グループホームや小規模多機能型居宅介護の特性について)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、4月・6月・8月・10月・12月に運営推進会議を実施することが出来ました。運営推進会議のメンバーやご家族様より、意見やアドバイスをいただいている。	新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、4月・6月・8月・10月・12月に運営推進会議を実施することが出来ました。運営推進会議のメンバーやご家族様より、意見やアドバイスをいただいている。	コロナ禍の中では書面による会議を行うが、コロナの落ち着いた期間は対面による会議を開催する。運営推進会議を通して、地域の方に事業所の畑の手入れの仕方を教えていただいたり、餅つき大会等を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、笛吹市の長寿介護課の職員が毎回出席して下さっている。他事業所の会議にも参加して下さっており、相談や協力体制が築けている。	運営推進会議において、笛吹市の長寿介護課の職員が毎回出席して下さっている。他事業所の会議にも参加して下さっており、相談や協力体制が築けている。	市の担当者がいくつかの事業所を横断的に対応することで情報共有がなされている。市の窓口には、事業所として小規模多機能型も併設されていることを地域の方に説明や紹介をしていただき、選択肢を与えてほしいとの要望があがっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で委員会の設置をしている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルの周知や職員研修も開催している。	法人で委員会の設置をしている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルの周知や職員研修も開催している。	身体拘束防止に関する法定研修を実施している。また、事業所内に委員会を設置して毎月事例の検討をしている。身体拘束の三原則に沿ったマニュアルを整備して、拘束が必要になった場合は管理者、家族の同意を得て対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で委員会の設置をしている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルの周知や職員研修も開催している。	法人で委員会の設置をしている。委員会メンバーが中心となり、マニュアルの周知や職員研修も開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束防止や虐待防止と同様に権利擁護について学ぶ機会を設けている。(今年度3月に開催予定)	身体拘束防止や虐待防止と同様に権利擁護について学ぶ機会を設けている。(今年度3月に開催予定)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	感染対策に留意しながら施設見学なども行っている。また、契約内容に変更が出た場合には、都度説明し同意を得ている。	感染対策に留意しながら施設見学なども行っている。また、契約内容に変更が出た場合には、都度説明し同意を得ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

寿ノ家グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春[こはる])	ユニット名(日和[ひより])	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でもある。ご家族とは電話やお手紙を中心として聞き取りを行っている。 苦情の受付が出来るように連絡先を明確にしている。	コロナ禍でもある。ご家族とは電話やお手紙を中心として聞き取りを行っている。 苦情の受付が出来るように連絡先を明確にしている。	コロナ禍の中で面会制限が続き、利用者家族共々辛い状況を受け入れてもらわなければならなかったが、面会に代わる方法として、タブレットを通しての面会、手紙のやり取りを行う。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットミーティングの機会を設けている。その中で、意見交換や提案をし、改善に繋げている。	毎月ユニットミーティングの機会を設けている。その中で、意見交換や提案をし、改善に繋げている。	職員は年度の初めに理事長に対して仕事に対する思いを手紙に書いて提出している。理事長は職員の意見を集約して運営面に反映している。年度の途中で出てくる職員の様々な要望については管理者が受け付けて理事長に上げている。職員の異動の希望については、その背景を鑑み他の事業所に繋ぐ等、職員が継続して働きやすい体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期・下期において個人目標を立て、個々に面接を行っている。	上期・下期において個人目標を立て、個々に面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を毎月行っている。資料を配布するなどして、欠席者に対するフォローアップも行っている。 外部研修(認知症実践研修)への参加の機会を設けた。 新人職員に対しては、プリセプター制度で教育を行っている。	法人内研修を毎月行っている。資料を配布するなどして、欠席者に対するフォローアップも行っている。 外部研修(認知症実践研修)への参加の機会を設けた。 新人職員に対しては、プリセプター制度で教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉機器を取り扱う業者主催の研修に、リモートという形で参加をすることが出来た。	福祉機器を取り扱う業者主催の研修に、リモートという形で参加をすることが出来た。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、ご本人並びにご家族に在所していただき、グループホームの雰囲気を感じていただいている。担当ケアマネや、ご家族から情報を得ると共に、ご本人の様子や言葉に耳を傾ける。	入居にあたっては、ご本人並びにご家族に在所していただき、グループホームの雰囲気を感じていただいている。担当ケアマネや、ご家族から情報を得ると共に、ご本人の様子や言葉に耳を傾ける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたっては、ご本人並びにご家族に在所していただき、グループホームの雰囲気を感じていただいている。担当ケアマネや、ご家族から情報を得ると共に、ご本人の様子や言葉に耳を傾ける。	入居にあたっては、ご本人並びにご家族に在所していただき、グループホームの雰囲気を感じていただいている。担当ケアマネや、ご家族から情報を得ると共に、ご本人の様子や言葉に耳を傾ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のお話を伺う。医療の必要性、要介護度、ご家族の状況などに合ったサービスの提案を行っている。	ご家族のお話を伺う。医療の必要性、要介護度、ご家族の状況などに合ったサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事が継続できるように、できる事を見出し、役割が持てるように支援するよう努めている。	本人のできる事が継続できるように、できる事を見出し、役割が持てるように支援するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

寿ノ家グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春[こはる])	ユニット名(日和[ひより])	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	入居者の状況や状態に応じて、ご家族へ報告・協力依 頼を行っている。	入居者の状況や状態に応じて、ご家族へ報告・協力依 頼を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染状況をみながら対面面会、 リモート面会を実施している。また、自宅への外出支 援も行っている。	新型コロナウイルスの感染状況をみながら対面面会、 リモート面会を実施している。また、自宅への外出支 援も行っている。	地域密着ということで、御坂町からの入居者が多くま た、地域の中でも著名な方が入居されることもあり、人 間関係も濃く入居後も馴染みの人間関係が継続されて いる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	一人ひとりのご様子に合わせて、職員が会話の架け 橋になれるよう心がけている。また、フロアの席順にも 配慮し、安心して過ごせるように配慮している。	一人ひとりのご様子に合わせて、職員が会話の架け 橋になれるよう心がけている。また、フロアの席順にも 配慮し、安心して過ごせるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は無し。	現在は無し。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人の言葉、ご家族の思いを大切にしている。アセ スメントシートを活用して、職員間で情報の共有を行っ ている。	ご本人の言葉、ご家族の思いを大切にしている。アセ スメントシートを活用して、職員間で情報の共有を行っ ている。	一日に1回、入居者との関わりをフロアのデスクにて 記録をするようにしている。意向の把握の困難な入居 者については、困難になる前から沢山話をし、その頃 の思いや希望を収集しておくようにしている。	入居者のニーズの共有の方法として、事業所、包 括センター、医療機関がMCS(メディカルケア・ス テーション)でつながり、入居者の情報を多角的、 客観的に共有することで、ニーズがより明らかにな るかと思えます。すでに取り入れている事業所も ございますので検討いただければと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人や、ご家族から情報が得られている。アセスメ ントシートを活用して情報の共有に努めている。 居室には馴染みの物を持ち込んでいただいている。	ご本人や、ご家族から情報が得られている。アセスメ ントシートを活用して情報の共有に努めている。 居室には馴染みの物を持ち込んでいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	カンファレンスやモニタリング、ミーティングの場を活用 して、定期的に見直しをしている。	カンファレンスやモニタリング、ミーティングの場を活用 して、定期的に見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員、計画作成担当が話し合い、 サービス計画を作成している。	ご本人、ご家族、職員、計画作成担当が話し合い、 サービス計画を作成している。	家族によるアンケートの回答にもあったように、本人の 体調の変化に応じてきめ細かな対応が職員間の連携 の中で実施されています。食事が急に摂れなくなった時 などは、リハビリを頑張るのではなく、Drの所見としての 老衰傾向にあることも踏まえて介護計画を見直してい る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、個人のケース記録に残して いる。 状態の変化、対応方法の変更については、連絡ノート へも記載し、情報の共有を図っている。	日々の様子については、個人のケース記録に残して いる。 状態の変化、対応方法の変更については、連絡ノート へも記載し、情報の共有を図っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

寿ノ家グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春[こはる])	ユニット名(日和[ひより])	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望や必要性に合わせて、サービスの協力体制がとれている。(リハビリスタッフによる助言、管理栄養士による助言)	ご本人、ご家族の要望や必要性に合わせて、サービスの協力体制がとれている。(リハビリスタッフによる助言、管理栄養士による助言)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との繋がりを大切に、ボランティアの受け入れを行っている。それにより、心身の力を発揮するきっかけを設けることに繋がっている。	地域の方との繋がりを大切に、ボランティアの受け入れを行っている。それにより、心身の力を発揮するきっかけを設けることに繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を尊重し、主治医の選択をしていただいている。意向の確認をしながら方針を決定している。 必要に応じて、ご家族と主治医が面談が行なえるように連携を図っている。	ご本人、ご家族の意向を尊重し、主治医の選択をしていただいている。意向の確認をしながら方針を決定している。 必要に応じて、ご家族と主治医が面談が行なえるように連携を図っている。	かかりつけ医を受診されている入居者もいるが、家族による通院が困難となってきている場合は協力医を紹介している。 現在6~7名の入居者が馴染みの主治医にかかっている。緊急時には、甲州看護訪問ステーションに連絡し、状況を説明して指示を仰ぎ対処している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の定期訪問で、健康チェックをしてくれている。また、昼夜相談できる環境が整っている。	週一回の定期訪問で、健康チェックをしてくれている。また、昼夜相談できる環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院には、メディカルソーシャルワーカーとのやり取りを行っている。退院に向けては、入院中の情報をいただくなどして、情報交換を行っている。	入退院には、メディカルソーシャルワーカーとのやり取りを行っている。退院に向けては、入院中の情報をいただくなどして、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の看取り介護指針を策定して、ご本人・ご家族から同意を得ている。 終末期の在り方については、ご本人・ご家族・職員・主治医・看護で方向性を明確にしている。	事業所の看取り介護指針を策定して、ご本人・ご家族から同意を得ている。 終末期の在り方については、ご本人・ご家族・職員・主治医・看護で方向性を明確にしている。	事業所で策定している「看取り介護指針」に沿って、医師が回復が難しいと認めた場合は緩和ケアの方向性を家族と話し合い同意を得ている。看取りの際、家族からの希望があれば、入居者に付き添えるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に委員会が設置されており、定期的に職員研修も行っている。また、緊急時や事故発生時の対応手順が明確化されている。 委員を中心に、定期的な事故分析を行い、その結果を現場へフィードバックしている。	法人に委員会が設置されており、定期的に職員研修も行っている。また、緊急時や事故発生時の対応手順が明確化されている。 委員を中心に、定期的な事故分析を行い、その結果を現場へフィードバックしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人に委員会が設置されており、毎月委員会が行なわれている。定期的な研修も実施している。 年2回、日中と夜間を想定した防災訓練を行っている。	法人に委員会が設置されており、毎月委員会が行なわれている。定期的な研修も実施している。 年2回、日中と夜間を想定した防災訓練を行っている。	近くに笛吹川はあるがハザードマップの対象地域にはなっていない。避難訓練では1階に呼び出しボタンを設置してあるため、小規模多機能型の事業所と合同で実施している。訓練はその日の職員体制の中で入居者役を設けながら実施しており、消火栓の使い方については消防署の協力を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配属された職員には『介護の基本姿勢』について学んでもらっている。 業務手順においてもプライバシー保護について明確化されている。	配属された職員には『介護の基本姿勢』について学んでもらっている。 業務手順においてもプライバシー保護について明確化されている。	入居者への同性介助あるいは異性介助の考え方については入居者の気持ちを尊重して対応している。ただ職員の男女比に偏りがあるため介助の在り方に課題を抱える。入居者同士のプライバシーの尊重については、見守りをしっかり行う中で未然に防ぐ工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

寿ノ家グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春[こはる])	ユニット名(日和[ひより])	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いや希望を確認できるように努めている。本人からの言葉を引き出せるように声掛けを多くしている。何かをする際には、必ず本人に確認する。	一人ひとりの思いや希望を確認できるように努めている。本人からの言葉を引き出せるように声掛けを多くしている。何かをする際には、必ず本人に確認する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者ひとりひとりの生活スタイルを把握できるように、情報共有シートの活用を行っている。それにより、本人の生活を中心とした流れで支援している。	入居者ひとりひとりの生活スタイルを把握できるように、情報共有シートの活用を行っている。それにより、本人の生活を中心とした流れで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類、理美容の支援を行っている。お化粧をする方には、そのお手伝いもしている。	季節に応じた衣類、理美容の支援を行っている。お化粧をする方には、そのお手伝いもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行っている。行事食については、食べたい物を聞きながら提供している。	食事の準備や片付けを一緒に行っている。行事食については、食べたい物を聞きながら提供している。	今年度は法人直営による委託とし、栄養課が入ったことで、食材の細かな状態(硬さや柔らかさ)に配慮がなされている。入居者が畑で栽培している野菜等を収穫して、食材として利用しており、入居者の励みにもなっている。季節のイベントでは赤飯やハロウィンのかぼちゃを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量については、記録を残している。習慣においては、アセスメントシートを活用して情報の共有を図っている。管理栄養士に相談できる体制が整っている。	食事量、水分摂取量については、記録を残している。習慣においては、アセスメントシートを活用して情報の共有を図っている。管理栄養士に相談できる体制が整っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせた支援を行っている。また、協力診療所の歯科に相談できる体制が整っている。	個々の状態に合わせた支援を行っている。また、協力診療所の歯科に相談できる体制が整っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用やご本人のサインに着目して、排泄パターンの把握に努めている。個々のリズムに合わせて排泄援助を行っている。	排泄チェック表の活用やご本人のサインに着目して、排泄パターンの把握に努めている。個々のリズムに合わせて排泄援助を行っている。	入居者のできることを尊重し、排泄マニュアルに沿って一人ひとりに必要な支援をしている。個々の排泄時間、リズム、タイミングを把握してその時に合ったバットを提供し、トイレでの排泄支援に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用をして、排泄パターンの把握に努めている。また、看護師、主治医に相談しアドバイスももらっている。乳製品、寒天ゼリーも積極的に提供している。	排泄チェック表の活用をして、排泄パターンの把握に努めている。また、看護師、主治医に相談しアドバイスももらっている。乳製品、寒天ゼリーも積極的に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の意向に沿えるように、必要に応じて、時間をずらすなど配慮している。個々の状態に合わせて、清拭や足浴を行っている。	ご本人の意向に沿えるように、必要に応じて、時間をずらすなど配慮している。個々の状態に合わせて、清拭や足浴を行っている。	入居者のその日の気分や状態に応じて入浴日や入浴時間を調整している。入浴を拒否する方には、タイミングを見計らって清拭や足浴を促し実施している。石鹸やシャンプー、あかすり等、一人ひとりの好みに配慮している。入居者が希望すれば同性介助に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時に、使い慣れた家具の持ち込みを案内している。本人の習慣、現在の状態に合わせた対応を心がけている。	入居時に、使い慣れた家具の持ち込みを案内している。本人の習慣、現在の状態に合わせた対応を心がけている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

寿ノ家グループホームみさか

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(小春[こはる])	ユニット名(日和[ひより])	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理を行っている。主治医からのアドバイスをもとに、個々に応じた内服支援を行っている。主治医、薬剤師に相談できる体制を整えている。	内服薬の管理を行っている。主治医からのアドバイスをもとに、個々に応じた内服支援を行っている。主治医、薬剤師に相談できる体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来ること、得意なこと、好きなことを継続できるように、担当職員が中心となり見出し出している。	ご本人の出来ること、得意なこと、好きなことを継続できるように、担当職員が中心となり見出し出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの蔓延に伴い、難しい状況にある。敷地内の散歩程度に留まっている。感染対策に留意し、ご家族協力のもと、自宅への外出支援を行えた。	新型コロナウイルスの蔓延に伴い、難しい状況にある。敷地内の散歩程度に留まっている。感染対策に留意し、ご家族協力のもと、自宅への外出支援を行えた。	コロナ禍の中で日常的に実施されていた外出ができない状況であったが、事業所敷地内を散歩したり、敷地内の菜園の水やりをするなど気分転換の機会を設けている。入居者の中には、感染対策を徹底して自宅への外出支援ができた方もいた。コロナ禍にあり、地域のの人々と協力しての外出は行えていない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向に沿って、金銭管理の支援を行っている。お金をご自身で所持している方が居る。確認を行っている。個人の預り金は、出納帳で管理して、ご家族様に定期的に報告している。	ご本人の意向に沿って、金銭管理の支援を行っている。個人の預り金は、出納帳で管理して、ご家族様に定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば都度対応している。また、ご家族に連絡をする時には、入居者様にも受話器をまわすように心掛けている。	希望があれば都度対応している。また、ご家族に連絡をする時には、入居者様にも受話器をまわすように心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分の飾りは、季節が感じられるよう、定期的に模様替えを行っている。温度計、湿度計を設置し、環境の調整を行っている。	共有部分の飾りは、季節が感じられるよう、定期的に模様替えを行っている。温度計、湿度計を設置し、環境の調整を行っている。	コロナ禍の中で外出の機会が持てないことから、共有空間には季節が感じられるような飾りに配慮されている。また、室内だけでなく、敷地内の菜園も野菜等を栽培し共有空間として管理されている。入居者の中で、トイレの場所や居室の入り口が分からなくなってきた方に対して、分かりやすくなるよう目印をつけて対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の状態や、他入居者との関係性に配慮して席のご用意をしている。ソファ一席の用意もしている。	ご本人の状態や、他入居者との関係性に配慮して席のご用意をしている。1人席や、ソファ一席の用意もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具の持ち込みを案内している。ご本人が安心して過ごせるように、ご本人様、ご家族様に相談しながら工夫している。	入居時に、使い慣れた家具の持ち込みを案内している。ご本人が安心して過ごせるように、ご本人様、ご家族様に相談しながら工夫している。	入居時に今まで愛用していた家財等を引き続き利用されている。中には仏壇を持ち込み亡きパートナーに毎朝ご飯を捧げていた入居者もいた。居室はフローリングになっているが、畳での生活様式を望まれる方はござを敷いて座布団にテーブルといった個性的な生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来ること、得意なことが維持できるように声掛けや見守りをして支援している。	ご本人の出来ること、得意なことが維持できるように声掛けや見守りをして支援している。		